【会員スピーチの時間】　　スピーチ：辻　匡人会員

テーマ『地域社会との関わり』

今日は、お寺と地域との関わりについて、お話をさせて戴きます。

皆様のお勤め先にも、会社法や定款のもとに就業や経理処理等の多岐に渡る様々な経営業務があります様に、私たちの宗教団体も宗教法人法に基づき、事業活動をしています。

先ずは、各宗門本山の宗旨に沿って、広く社会に公益事業として展開していく宗教活動があります。例えば、我が宗門でいうと、本山の少年少女研修会や坐禅会、花園大学の聴講やボランティア活動等への様々なご案内や東北教区・秋田県内で開催する種々の研修会（役員研修、各定期総会、巡教法話、御詠歌大会等）への参加があります。

その他に、各寺院での特別行事（元旦・小正月行事、お涅槃・彼岸会、施餓鬼・盆行事、依頼される法話、坐禅研修会等）と、通常業務としての祥月命日・朝経・法事・葬儀等があります。これらの行事による檀信徒との関わりの中で、一般社会とお寺との交流が育まれていきます。

また、運営にあたっては、お寺に出入りの指定・指名業者の他（葬儀社・生花店・石材店・仏具店・法衣店・材木店・菓子飲食関係等）とのお付合いもあります。地域社会の中で、お寺も経済の歯車の一端を担っています。

尚、和尚には、専業の方々と副職として教職・公務員関係や福祉施設・学校・幼稚園管理者も多く見受けられます。
社会や地域への貢献としては、民生児童委員協議会、社会福祉協議会、保護司、家庭裁判所調停委員、青少年指導委員、学校教育委員、福祉施設役員、人権擁護・傾聴ボランティア、障害者支援・災害支援ＮＰＯ法人関係等、多岐に渡って活動している方々もおります。

昌東院での話をすると、祖父の頃は日大卒業後、四十歳まで東京の職業安定所に勤めた経験から、村長と共に行政機関と折衝して、農村に電気やバスを開通しました。時代を担う村の青年たちに真心会の坐禅会を通して生涯教育する傍ら、植物学者の菅原兵治(先生の庄内寮や安岡正篤塾への推薦入学や、農村の生活改善の為、食住環境の改善・指導等をいたしました。祖母も共立大学の講師としての経験を生かし、貧しかった農村女性の為に、生活や教育積立・結婚資金を貯めていく洋裁・和裁技術等の内職の技を教えて支援をいたしました。

父の時代は、終戦後京都の大学を卒業し、金農天王分校に赴任した折、村の子供たちは中学を卒業しても進学の機会が少なく、高等教育を受けさせる目的で、金足農業高校の分教所を地元中学校の一室に開校しました。その後、定時制教師として多くの教え子の職活指導や36組もの仲人をしました。
また、娘が障害をもって生まれたので、それこそ死に物狂いに障害者教育や親の会組織作り、障害者支援施設の開設に向けて全国や県内を奔走し、秋田の障害者教育の礎を築きました。私が小学5年の時、火災でお寺が全焼しましたが、再建に向けて母も一心不乱に、父を支えてお寺と家庭を守りました。檀家が1件も離檀しなかったことは、今思うと地域の強い支えがあったからこそと、本当に有難く、只々感謝のこころです。

父の趣味では、地元文化の発展を願い、陶芸作家の小野正人氏と須恵沢窯の立上げ、茶道道具に用いられる日本漆は妻の実家の父兄、生駒漆芸工房の生駒弘氏・生駒親雄氏より学び、書家の那波雲城氏や日本画家の井川恵義氏との親交を深め、自身も茶道や書画を嗜み、秋田県文化団体連盟の役職を担い、地元の芸術文化の発展に努めた功績がみとめられて、秋田県芸術文化章を頂戴いたしました。

茶道では、毎年六月に開催されている野点の七流派合同の千秋茶会を、市教育委員会や呉服振興組合の協力を得て開設し、秋田市内には全国唯一の男子社中（男子懇談会）を創設しました。また家元・裏千家千宗室師に参事として同行しては、海外の大学や各地で「茶と禅」の講演をして、茶道の普及に尽力しました。

特に、家元が親善大使としてカンボジアに同行した折は、裸足で2時間も歩き学校に通う子供たちの姿に驚愕し、貧困を救う目的で、秋田県内でチャリティー茶会を企画開催して、その収益を寄附金としてカンボジアに学校を建設し、家元と共に贈呈しました。

尚、宗門関係に於いては、東北教区の宗会議員の時、花園学園（幼児園・中学校・高等学校・大学）の機構強化と子弟教育の資質向上のために、宗議会で宗務本所内に僧籍資格者で教職員経験者の組織を立ち上げました。

また、孫娘の将来を考え、宗議会で六億円の予算を計上して、女性たちが唯一住職資格を取得出来る尼僧専門僧堂を岐阜市に準備開設して、全国の尼僧さんや、後継者に婦人しか居ない寺院の方々に感謝されております。お陰さまで、現在わが臨済宗宗門も時代に則した、男女協働で参画出来る宗教教団となりました。

私の頃になりますと、師匠のように大きな仕事は出来ませんが、祖父の葬儀の折、将来の護寺会後継者を育成する目的で、青壮年部（正見会）を組織して、葬儀の下支えをして戴きました。当時の我が家は、茶道一家で、その影響が青壮年部にも波及して、お稽古に毎晩のように会員が集まりました。偶々子育て真只中の年代が多かったので、娘が幼児園年少の時、子育てが親育て（自分）の成長となる事を願い、茶道マナー教室が始まりました。その後、お寺の青壮年部と幼児園が共催して、秋田市制百周年の冠イベントを申請し、千秋公園千庵で園児による記念茶会を開催しました。その模様は、魁新聞に掲載され、テレビニュースで放映されました。

また、本業では無いのに、お寺に人が沢山集まったのは、子供を中心に考えた「オバケ大会」でした。10年程続いたと思いますが、青壮年部と父母の会、爺婆百名以上も集まりました。当日は、大人が段取り中高生も手伝って、山門の前にプールを設営しました。生きものを頂く食育の一環と念じて、イワナ手掴み競争、イワナの炭火焼き、カレーライスと焼魚を残さず頂きました。本堂での怖い説法の後、賞品を用意してオバケ大会、花火をして終わる、忙しくも楽しい一日でした。

年末には、地域の子供や大人たちに声掛けして、お寺の煤払いを手伝ってもらい忘年会をするのが恒例となりました。冬には毎年、そのメンバーで田沢湖高原に一泊のスキー大会をして親睦を深めました。私たちが若い頃は、とにかく楽しくて、誰もが関われる企画を縷々考えていました。

尚、嫁（寺庭）は父の文化活動を引き継ぎ、地元の幼・小・中学校に茶道を教え、地域の女性達にも着物の着付けを教えるなど、日本文化の継承に力を注いでおります。

最近の地域との関わり方では、先月25日に上新城小学校の全校生徒と校長先生・教職員の方々に、昌東院に訪問頂き「いのちの学習」をテーマに講話・坐禅・茶道（自服）体験の郊外授業をいたしました。その模様は学校ホームページに掲載されます。

又、近年は農村地域の超高齢化現象で、日中独居や老々世帯・一人暮しのお年寄りが増加しており、地域の「見守り」の研修会を関係機関や組織と協議して企画しました。来月21日にはお寺の本堂を会場に、地区民生児童委員協議会と昌東院の共催で、北部包括支援センターに講師を依頼して、地域町内会の関係者と昌東院護持会に、其々のご案内で「認知症サポーター養成講座」の講習会を予定しています。

公益法人としての職責に準じた、活動を展開しながら、地域のお寺さんとして社会貢献できます様、真摯に自分と向合い職務に励んでおります。

最後に、白沢会長より、この様な機会を戴きまして感謝を申上げます。
また、皆様には貴重なお時間にお付合い頂きまして、お礼申し上げます。どうも有り難うございました。